

地域メディアがもつ地域再生機能

—北海道十勝エリアを事例に—

札幌学院大学 小内純子

1. 目的

社会解体的危機のあると言われる地方圏の維持・再生にとって、地域メディアが果たす役割は大きい。本報告では、北海道十勝エリアを対象に、地域メディアがもつ地域再生機能について検討し、地域住民にとって地域メディアがもつ意味を考察する。地域メディアが果たす役割を分析する場合、メディア産業としての側面と地域メディアが発信するコンテンツという側面の2つのアプローチが考えられる。ただしこの2つの側面は密接に関係しているため、本報告では、この両面に目配りしつつ考察を進める。

2. 対象地域の特徴

北海道において十勝エリアは、独自の地方文化圏を形成してきた。高度経済成長期から札幌市への人口の一極集中が進み、札幌市以外の多くの市町村で人口減が進むなかにあつて、帯広市を中心とする十勝エリアでは2000年頃まで人口は増加基調で推移してきた。農業と建設業を二本柱とする地域経済が堅調な時期が長く、道内では相対的に活気のある地域として知られる。この“十勝力”とも呼ばれるパワーは、十勝エリアの地理的条件と切り離して語ることはできない。日高山脈で分断されていた鉄道網が整備され、札幌市と約3時間で結ばれるようになるのは1981年のことである。それ以前はアクセスの悪さもあつて相対的にクローズドのエリアを形成しており、クローズドであるゆえに地域内部で力を蓄えてきたことを特徴とする。期せずして「地域内再投資力」（岡田知弘）が高まり、そのもつで地場に根を張る中小企業が多数成長し、同業者は互いにライバルとして切磋琢磨して力を付けてきたという歴史がある。

3. 多様なメディアの存在状況

以上のような状況は地域メディアにもあてはまる。十勝エリアには地域メディアが多数存在し、互いに切磋琢磨して今日に至っている。エリアがクローズドであることは、地域メディアの成長にとって非常にプラスに作用してきた。

十勝エリアにおいて、地域メディアのトップに君臨してきたのが十勝毎日新聞社を中心とする“勝毎グループ”である。新聞のほか、CATV、コミュニティFM、フリーペーパーなどを所有し、長く十勝のメディア業界をリードしてきた。と同時に、地元のメディア業界のライバル企業との間で火花を散らし、互いに成長してきたという面もあり、その過程は、「競争・対立」と「共存・棲み分け」の過程として捉えることができる。

本報告では、まず第1に、十勝毎日新聞を中心に“勝毎グループ”の成長過程と地域で果たしてきた役割について検討し、その強さの秘密をさぐる。その上で第2に、メディア間の「競争・対立」と「共存・棲み分け」の状況を、新聞、コミュニティFM、雑誌を取り上げて分析する。第3に、地域住民にとって地域メディアが果たす役割について考察する。

4. まとめ

以上を踏まえ、地方圏の維持・再生にとって、地域メディアが果たしうる役割についてまとめを行う。十勝エリアに関して言えば、地域メディアには情報発信・情報共有を通じて維持・再生に関わると同時に、メディア業界内部での「競争・対立」を通じて地域社会の活性化に一役かかってきた側面があることを指摘する。